

Ⅲ. 国家試験

1. 看護師・保健師国家試験

第105回看護師国家試験は、平成28年2月14日に、第102回保健師国家試験は、平成28年2月16日に実施され、その結果が3月25日に発表された。看護師国家試験は21期生40名、20期生1名が受験、41名全員が合格（100.0%）し、保健師は21期生20名が受験し、全員が合格した（100.0%）。

なお、全国の看護師国家試験合格率は89.4%、保健師国家試験合格率は89.8%であった。

Ⅳ. 学生生活アドバイザー

平成21年度より、学生生活を更に豊かなものとするため、学習上や生活上の悩みを気軽に相談できる学生生活アドバイザー制度を導入した。1、2年生を対象とし、比較的若手の教員が5～6名の学生を担当し、前期・後期それぞれ1回の交流活動の他、適宜自由に活動を行なった。学生アンケートの結果は好評であった。

Ⅴ. 進路指導関係

学生への進路指導については、早期から担当教員が個別面談を実施するなど、きめ細やかに対応を行った。また、ナース就職支援室と協力し、分院の見学バスツアーを行うなど、慈恵への就職指導にも力を入れた。

平成28年3月卒業生40名の進路の内訳は、次のとおりであった。

本学附属病院への就職	30名
進学	1名
保健師として就職	0名
他病院就職	9名
その他	0名

(3) 大学院

1. 医学研究科博士課程

平成19年度より大学院改革を実施し、以後大学院の改善充実化を図るため種々検討を重ね、平成27年度は以下のとおり実施した。

1) 研究助成制度の運営

平成22年度の経常費補助金特別補助の大幅な見直しにより、大学院生に対する大学院研究助成金と大学院教員に対する医学研究科研究推進費の助成制度が廃止された。本学では研究の充実化と活性化を堅持するため平成27年度は以下のとおりとなった。

① 大学院研究助成金

・平成27年度採択件数：15件

② 医学研究科研究推進費

・平成27年度採択件数：新規2件、継続2件

また、臨床医学講座に所属する教員と基礎医学講座もしくは総合医科学研究センターに所属する教員が臨床医学における新たな研究の展開と技術開発に関する研究シーズを共同で探索し、次年度に科研費等の外部競争の研究資金を獲得することを目的とした東京慈恵会医科大学萌芽的共同研究推進費を平成25年度より創設した。

③ 萌芽的共同研究推進費

・平成27年度採択件数：新規5件

2) がん治療医療人養成コース

高度ながん医療を実施できる国際的な視野をもったがん専門医を養成するため、社会人大学院生を対象とした「がん治療医療人養成コース」を既存の悪性腫瘍治療学の授業細目に組入れて募集を行った。志願者：0名

3) カリキュラム内容の検証

・社会人大学院生のニーズにより、平成23年度から共通カリキュラムにe-learningシステムを利用した「疫学・臨床研究」の科目を導入し、実施した。単位取得者3名さらに、

CITI Japan による e-learning システムを「医の倫理」の科目に導入した。

- ・大学院共通カリキュラムの特別講義では、新任の教授だけではなく本学で活躍している若手研究者を講師として講義を行った。

平成28年度の大学院（博士課程）入試は2回実施し、1回目は平成27年10月3日に、2回目は平成28年1月22日に実施した。その結果、48名（うち社会人10名）が合格した。本学の大学院生は本学の各講座、総合医科学研究センターのみならず、国立がん研究センター、国立成育医療センター、日本医科大学、東京女子医科大学、東海大学、早稲田大学、愛知医科大学など国内外の様々な大学、研究所でも広く研究を行っている。

2. 看護学専攻修士課程

平成27年度も継続して安定的な運営と各委員会との連携を密にして効率的運営に努めた。

1) 大学院教員・院生へ Faculty Development の実施

看護学のみならず医療、心理、教育など多方面で活用されつつある混合研究法を理解する目的で、看護研究に用いた実践例を挙げて講義がなされ、混合研究法についての理解が深まった。

講師：聖路加国際大学大学院・看護学研究科 老年看護学 亀井智子教授

講演テーマ：看護研究における混合研究法の活用例

—複雑な事象を理解するための研究方法として—

日時：平成27年9月26日（土）14：00—17：00

2) 研究助成制度について

大学院生に対する教育研究助成は、大学院研究助成制度による使用分と研究指導費による助成により、研究活動の範囲や内容を高めることを図った。平成27年度大学院研究助成制度による研究助成採択者は8名。

3) 入学試験について

入学試験は、募集を平成27年8月1日（土）～8月31日（月）に行い、出願資格認定試験を平成27年9月8日（火）、入学試験を平成27年9月13日（日）に実施した。

その結果、10名の応募があり、10名が合格した。

4) 修了生について

平成25年4月入学大学院生1名、平成26年度入学生7名の合計8名の修了式を平成28年3月22日（火）に挙行了した。

5) 教育課程の評価と改善

大学院生による授業評価は、講義終了後に科目責任者と大学院生が講義内容について話し合いを持つ方式に改めて5年目を迎え、評価を踏まえ次年度担当教員を変更する等の着実な改善が速やかにできた。

また、大学院生の学修時間確保の観点から、平成27年度より、母子健康看護学分野・看護管理学分野・地域連携保健学分野は、特論Ⅰ～Ⅲ、演習Ⅰ～Ⅲ構成を、特論ⅠからⅤ、演習Ⅰと科目構成を変更することとし、運用を図った。その結果、大学院生の自修時間の確保が容易となり学修意欲、科目の修得に効果が見られた。

6) 専門看護師認定試験

専門看護師教育課程を受講した2名が専門看護師認定試験を受験し合格した。分野は急性・重症患者看護分野で1名、がん看護分野1名の合計2名である。

7) 科目履修生

科目履修制度を利用した履修生が2名、初めて誕生した。

履修生2名は本課程修了者で、履修科目は「急性・重症患者看護学実習」であり、専門看護師教育課程修了を目的に履修し、単位を取得した。